

# 馬用の道具

## モンゴル—草原のかおりをたのしむ

# D0120

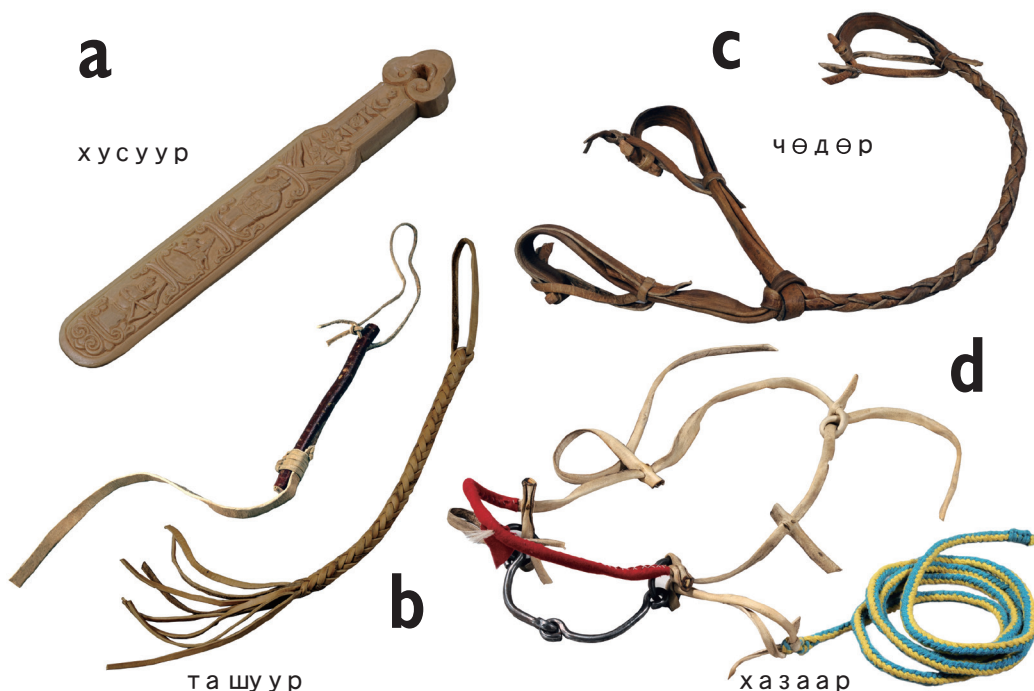
アルハンガイ県 ツェツェルノグ市/  
モンゴル

### 参照資料

『暮らしがわかるア  
ジア読本—モンゴ  
ル』  
p.178～p.185

『草原の遊牧文明』  
p.61、p.93

季刊民族学  
No.49 p.23～p.33  
No.78 p.64～p.65



a 馬用汗取りべら〈ホソール〉 b むち〈タシヨール〉 c 足かせ〈チュドウル〉  
d はみ〈ハザール〉

ホソールは、ウマを飼っていれば必ずある道具です。普段はゲルの梁にはさんでおかれます。ホソールをウマの体に押しあてながら沿わせ、すくい取った汗を振り落すようにして使います。汗を拭かずにおくと、体が冷えて熱を出すだけでなく、鞍のあたる部分が炎症をおこして傷になり、ウマが使えなくなってしまうため、手入れはしっかり行います。ホソールにはさまざまな木が使われますが加工しやすいヤナギが好まれ、持ち手の部分の穴には、ハダクと呼ばれる青色の絹布を巻きつけていることが多いです。

(〔参考文献〕 野沢延行 1991『モンゴルの馬と遊牧民—大草原の生活誌』原書房)